

スタートカリキュラムの作成と実践

永 野 優 希 [鹿児島大学教育学部附属小学校]

Creating a Start curriculum and practice

NAGANO Yuki

キーワード：スタートカリキュラム、生活科、合科的・関連的な指導、学校探検、気づき

1. はじめに

小学校への入学を機に、子どもたちの生活は遊びを中心とした生活から、教科学習を中心とした生活へと変化する。これまで、遊びを通した総合的な活動から様々なことを学んでいた子どもたちにとって、椅子に座り教科書を使った学習へと転換することは容易なことではない。また、このような生活の変化によって生じる段差によって、小学校生活への不安をもつ子どもは少なくないと言える。入学期の子どもたちが安心感と期待をもって小学校生活を送ることができるようにするためには、幼児教育と小学校教育との段差を感じさせないカリキュラムを編成していくことが必要である。

小学校学習指導要領解説生活編には改訂の要点として、「学校生活への適応が図られるよう、合科的な指導を行うことなどの工夫により第1学年入学当初のカリキュラムをスタートカリキュラムとして改善する」と述べられている。また、小学校学習指導要領解説生活編には、「総合的に学ぶ幼児教育の成果を小学校教育に生かすことが、小1プロブレムなどの問題を解決し、学校生活への適応を進めることになるものと期待される。」と述べられている。このことから、スタートカリキュラムの編成は、小学校入学期の子どもたちのために必要不可欠なものであると言える。

これまで本校では入学当初の子どもたちに学校生活への適応指導を行っていたが、具体的なカリキュラムとして形になっていないという実態があった。そこで、今年度はスタートカリキュラムを作成し、実践していくこととした。

2. スタートカリキュラムの基本的な考え方

2.1 スタートカリキュラムのねらい

学校生活における様々な人・もの・ことに直接かかわる活動を通して、その存在やよさに気づき、「明日も学校に行きたいな。」「こんなことしてみたいな。」というような学校の生活や学習への意欲や自信を高めることをねらいとする。なお、学校生活上必要な基本的な生活習慣については、実際の生活の状況と関連させながら子ども自身に気付かせ、行動の必然性へとつなげ、納得させながら学習や生活の習慣を定着させていく。

2.2 スタートカリキュラムの実施期間

入学からの約1ヶ月をスタートカリキュラムの実施期間とする。ただし、幼児教育における体験を通した総合的な学習から、分化された教科学習への滑らかな接続を果たすという目的から、入学後約1ヶ月を過ぎた後も、スタートカリキュラムのねらいと指導上の考え方を基に指導を行っていく。

2.3 スタートカリキュラムの核となる教科及び学習内容

生活科は他教科等との関連が深いという教科の特質から、生活科をスタートカリキュラムの核となる教科として編成する。具体的には、第1学年4～5月単元「たのしい がっこう」の小単元「がっこうたんけんをしよう」(内容(3))を核としたカリキュラムとする。

2.4 スタートカリキュラムの指導上の考え方

幼児教育での遊びを中心とした体験活動と、小学校教育の中心となる教科学習の要素を組み合わせた指導を基にする。生活科を中心に他教科等の

内容を合科的・関連的に扱い、大きな単元を構成していく。その際、合科的な指導を中核としながら、関連させた教科等双方の目標が達成されるように配慮する。なお、合科的・関連的な指導とは表1のとおりである。(小学校学習指導要領生活編より)

3. スタートカリキュラムの作成

3.1 週ごとのテーマ及び学習指導のポイント

段階的に学校生活に適応させていくために、スタートカリキュラム実施期間中は、表2のように週ごとにテーマを設定する。そして、それらを基に学習指導のポイントを置く。

3.2 学級担任の運用

学級担任は、上記の週ごとのテーマは各教科等の指導計画を基に、より効果的な指導ができるよ

表1 合科的・関連的な指導

合科的な指導	単元又は1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開して指導する。
関連的な指導	教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導する。

表2 週ごとのテーマ及び学習指導のポイント

週	テーマ(各教科等を貫くもの)		
	人とかかわり	学習にかかわること	基本的生活習慣
学習指導のポイント			
第1週目	やさしさいっぱい ふぞくしよう！(安心感)		
	「学校には、やさしい先生がたがいるな。」	「学校のお勉強は、幼稚園や保育園での活動を生かしてできそうだな。」	・朝の準備 ・帰りの準備 ・トイレの使い方 ・服装 等
	○ 生活や学習への安心感をもたせるために、必要な基本的な習慣を、子どもの意欲を大切にしながら指導していく。 ○ 学校内における多様な人・もの・こととの出会いを豊富にする。		
第2週目	たのしさいっぱい ふぞくしよう！(期待感)		
	「友達といっしょに遊んだり勉強したりするのって楽しいな。」	「勉強して、いろんなことを知ったり、できるようになったりしてうれしいな。」	・授業開始のあいさつ ・学習準備 ・体育服への更衣 等
	○ 一週目で出合った人・もの・ことに対するその子なりのよさを実感するために、じっくり・ゆっくり・たっぷりとかわることができるようになる。		
第3週目	いいこといっぱい ふぞくしよう！(満足感)		
	「学校にはやさしい先生やお兄さんお姉さんがたくさんいるな。」 「もっと、かわかりたいな。」	「学校には、国語や算数、たのしい学習があるんだね。」	・時間への意識の始まり ・言葉の使い方 ・学習道具の整理整頓 等
	○ 人・もの・ことに対するその子なりのよさを広げていくために、活動を個別化したり友達との交流活動を設定したりする。		
第4週目	もっとできるよ ぼくわたし！(有能感)		
	「いろんな人たちと、話したり、遊んだりできるようになった。」 「もっと、友達を増やしたいな。」	「いろんな学習で、～～ができるようになったよ。」 「もっと、～～を頑張っていきたいな。」	・主な基本的生活及び学習習慣ができるようになる。
	○ 自分の変容や成長に気付かせるために、振り返り活動を充実させる。その際、振り返るための具体物を準備するなど、子どもの実態に応じた指導を行う。		

う時間割計画(週案)を週ごとに作成する。その際、子どもの一日のストーリーを考えた計画となるようにする。作成した時間割計画は、保護者へ配布する。これは、保護者の中には、小学校生活が初めてとなる保護者もあり、週案を通して事前に準備物や活動予定を知ること、学校生活への不安を解消するためである。学習の様子を伝えるため

に、配布する週案には簡単な活動内容及び時数を示すこととした。

4. スタートカリキュラムの実践

これまでに述べた基本的な考え方を基に、週案を作成し、実践を行った。

4.1 第1週の週案と実際

表3 第1週の週案

【第1週テーマ】やさしさいっぱい ふぞくしょう！（安心感）					
日	6	7	8	9	10
曜	月	火	水	木	金
行事		入学式			学年学級PTA (低学年)
朝			わくわくタイム (学級での朝の会・ 学級活動) ○ 自分の出席番号を知り、番号順に並ぶ。 ○ 引き出しや棚の使い方を 知る。 ○ ランドセルの片付け方を 知る。 ○ 靴箱の使い方や並べ方を 知る。 ○ 挨拶の仕方を話し合う。	安全指導 わくわくタイム (学級での朝の会・ 生活) ○ 友だちや先生と挨拶を交 わす。 ○ ランドセルの中身を引 き出しに整理して入れる。 ○ ランドセルを棚に片付け る。 ○ 出席番号順に並んで、学 校を探検する。 ○ 学校探検をしながら、校 舎内での安全な過ごし方 や校庭での遊び方を知る。 ○ 廊下の歩き方や過 ごし方を知る。 じぶんのことをしょう かいしよう(生活・図工) ○ 自分の絵を描いて自己 紹介をする。	わくわくタイム (学年での朝の会・ 国語・算数・生活・音楽) ・ みんなでうたおう ・ みんなであそぼう ○ 友だちや先生と挨拶を 交わす。 ○ 仲間づくりゲームを する。 ○ 返事の仕方や話の聞 き方を話し合う。 ○ 絵本の読み聞かせを 聞く。
1		○ 担任の先生や学級の友だちに出会う。 ○ 担任の名前と学級の名前を知る。 ○ 入学式に参加する。 ○ 担任の先生の話聞く。	がっこうたんけんをしよう(生活) ○ 学校を探検して、自分の靴箱や保健室の場所を知る。 ○ トイレの場所を知る。 ○ トイレの使い方を 知る。		あさ(国語) ○ 朝の学校の様子で、見付けたことや気付いたことを話し合う。 ○ 鉛筆の正しい持ち方を確認し、運筆練習をする。
2			うきうきタイム (学級活動及び学年での帰りの会) ○ お便りのしまい方や帰りの準備の仕方を 知り、帰りの準備をする。 ○ 安全な下校の仕方を話し 合う。 ○ 集団下校の仕方を 知る。 ○ 友だちや先生に元気に 挨拶する。	うきうきタイム (生活及び学年での帰りの会) ○ 一日を振り返る。 ○ 安全な下校の仕方を 話し合う。 ○ 帰りの準備をする。 ○ 帰りの挨拶をする。 ○ 集団下校をする。	うきうきタイム (生活及び学年での帰りの会) ○ 一日を振り返る。 ○ 安全な下校の仕方を 話し合う。 ○ 帰りの準備をする。 ○ 帰りの挨拶をする。 ○ 安全に気を付けながら 集団下校をする。
3					
下校			11:40頃 学校発	11:40頃 学校発	11:40頃 学校発
時数	国語：1.5時間、算数：0.5時間、生活：3時間、音楽：0.5時間、図工：0.5時間、特活（学級活動）：3時間				

◎第1週のねらい：1年生にかかわる先生方と慣れ親しむ活動や教室やトイレなどの身の回りの施設の使い方を知る活動を通して、小中学校生活への安心感を高める。

4.1.1 第1週の週案作成のポイント

数多くの幼稚園・保育所から入学してくるため、学級の中に幼稚園・保育所からの友達が少ない子どもがほとんどである。そこで、学年での集団下校や朝の会（わくわくタイム）を設定し、『多くの先生がぼくたちのことを見守ってくれているんだ。』と、学級担任だけでなく、他の学級の担任や専科の先生も自分たちの先生ととらえさせ、安心感をもつことができるようにした。

活動の時間については、子どもの実態に合わせて設定していくことを学年で共通理解を図った。（1単位45分に縛られないタイムテーブルの実施）生活科の学校探検を、スタートカリキュラムにおいての核となる学習活動として設定し、トイレや靴箱、廊下、保健室など、子どもにとって身近な施設に触れながら、学校生活上の基本的な習慣に

ついて気付くことができるようにしていく。

4.1.2 わくわくタイムについて

1年部を中心とした先生方とかかわる活動や挨拶や仲間づくりなど学年の友達とかかわる活動を通して、学年に対しての所属感を高めることができるようにする時間として設定した。子どもが学校生活に対して、期待感や満足感をもってほしいという思いから活動名を『わくわくタイム』とした。活動内容は、各担当者の得意なことを生かして役割分担をする。

実施する時間帯としては、一日のスタートである朝活～1時間目を基本とした。

4.1.3 うきうきタイムについて

一日の終わりに、学級や学年での帰りの会を通して、一日を振り返りながら、できるようになったことや楽しかったことを伝え合い、次の日から学校生活に対しての意欲をもつことができるようにする。

表4 第2週の週案

【第2週テーマ】たのしさいっぱい ふぞくしょう！（期待感）					
日	13	14	15	16	17
曜	月	火	水	木	金
行事	聴力検査		避難訓練 （地震・火災）	視力検査 通子会ロング	わくわくタイム
朝	学年朝会	にこにこタイム	通子会	学級の時間	わくわくタイム （生活・算数・音楽） ・みんなでうたおう ・みんなであそぼう ○友達と歌遊びをする。 ○仲間づくりゲームをする。 ○絵本の読み聞かせを聞く。
1	がっこうたんけんをしよう （生活・国語・算数） ○学校探検をする。 ○廊下の適切な歩き方を知る。 ○探検で見付けたものを数える。	がっこうたんけんをしよう（生活） ○校内のいろいろな教室を探検する。 ○他の学年の学習の様子を知る。	ハローイングリッシュ（外国語） ○外国語科の先生を知る。 ○英語であいさつをする。	うたってあそぼう（音楽） ○友達と楽しくリズム遊びをする。 ○友達と楽しく歌を歌う。	
2	○探検で見付けたものや人を伝え合う。	えんぴつとなかよくなる（書写） ○文字を書く時の正しい姿勢を知る。	どうぶつたんけん（算数） ○教科書の挿絵の動物を数える。	しりよくけんさ（学校行事） ○多目的室を知り、視力検査を受ける。	がっこうたんけんをしよう（生活・算数） ○校庭を探検する。 ○見付けたものの数を数える。
3	ちょうりよくけんさ（学校行事） ○パソコン室の場所を知り、聴力検査を受ける。	ともだちをたくさんつくろう（生活・体育） ○友達と校庭や遊具で楽しく遊ぶ。	ひなんくんれん（学校行事） ○校内で地震と火災が起きたときの避難の仕方を知る。	つうこかいロング（特別活動） ○同じ通子会の友達を知り、登下校の仕方について話し合う。	ともだちをたくさんつくろう（生活・体育） ○友達と校庭や遊具で楽しく遊ぶ。

4	きゅうしょくのじゅんぴをしよう (学活) ○給食時に必要な準備を知る。	たのしいがっこう (生活) ○給食の時間のマナーについて話し合う。	どんなおはなしか (国語) ○絵本の読み聞かせを聞く。 ○感想を話し合う。	どうぞよろしく (国語) ○名前や好きなものの絵をかいた名刺を作る。	見るとびっくり (図工) ○学校探検で見つけた葉や石を見て、イメージを広げる。
5	そうじのしかたをしよう (学活) ○教室掃除の仕方を知り、みんなで掃除する。	たのしいがっこう (生活) ○登下校の様子を振り返る。 ○自分の通子会を知る	あとしまつ (道徳) ○後始末の大切さについて話し合う。	からだほぐしのうんどう (体育) ○友達と楽しく体を動かしながら遊ぶ。	どんなおはなしか (国語) ○図書室に行き、絵本を読む。
下校	15:05頃 学校発	14:25頃 学校発	15:05頃 学校発	15:05頃 学校発	15:05頃 学校発
時数	国語：5時間、算数：2.5時間、生活：5時間、音楽：1.5時間、図工：1時間、体育：2時間、外国語：1時間、道徳：1時間、特活：3時間、学校行事：3時間				

4.2 第2週の週案と実際

◎第2週のねらい：遊びや学習の中で友達と楽しくかかわる活動を通して、一緒に活動するよさを味わい、学校生活への期待感を高める。

4.2.1 第2週の週案作成ポイント

第2週のテーマ「たのしさいっぱい ふぞくしょう！」に合わせ、友達とのかかわりが生まれる活動を設定する。その際、体育服への更衣の仕方や脱いだ服の置き方を知る活動（生活）の後、体いっぱい使って友達と遊ぶ活動（体育）を行い、そして、その活動を通して気付いたことを表現し伝え合う活動（生活）を設定するなど、合科的な学習を取り入れていく。

朝の会や帰りの会、給食の時間は子どもが準備等に慣れるまで、ゆったりと時間を取れるような弾力的な時間配分を行うこととした。特に、給食の時間は6年部の協力をもらい、6年生に手伝ってもらいながら、準備や後片付けの仕方が身に付くようにした。

「わくわくタイム」を週のまとめである金曜日に設定し、『学校には楽しい友達や先生がいっぱいいてうれしいな。』と、期待感を高めた状態で第3週へつなげられるようにした。

4.2.2 第1週からの子どもの変容

第2週のわくわくタイムに続けて、週の始めの学年朝会でも、1年部の先生方の役割（校務分掌）や学年目標について聞く活動を設定した。これによって、多くの子どもが、担任だけでなく、他の

学級の担任や専科の先生の名前と顔を覚え、自分から挨拶をしたり他の学級の担任に「〇〇先生だ！」と声をかけたりする姿があった。また、始業前等に担任が用事で教室に不在の場面でも、隣の教室に来て、「何をしたらいいの？」と自分から尋ねてくる子どもの姿がよく見られた。分からないことがあっても、頼れる大人がいるという安心感をもつことができていた。

また、子どもにとって楽しい活動の中に、学校生活において必要な習慣・技能（安全な廊下歩行やトイレの使い方等）を指導する場面を設定したことで、楽しみながら、習慣・技能を理解する姿が見られた。特に、友達とかかわる活動を重視して設定していたことで、集団でのルールやマナーについて考えさせる機会を多くもつことができた。

4.3 第3週の週案と実際

◎第3週のねらい：学校行事等にかかわる活動を通して、同じ学年や違う学年の友達とのかかわりを深め、学校生活への満足感を高める。

4.3.1 第3週の週案作成ポイント

第3週には、学校行事の春の一日遠足や児童会活動の親子通学子ども会（縦割りによる登下校班の活動）、そして、第4週に実施されるかけっこ・リレー大会を見通した活動を意図的に設定するようにした。初めての学校行事等があることから、それらに向けて、安心して参加することができるようにするとともに、自分にとってプラスになる

表5 第3週の週案

【第3週テーマ】いいこといっぱい ふぞくしょう！（満足感）					
日	20	21	22	23	24
曜	月	火	水	木	金
行事	掃除班会議	学年体育の実施 (かけっこ・リレー大会)	親子通学子ども会	内科検診 学年体育の実施 (かけっこ・リレー大会)	春の一日遠足
朝	学級の時間	さわやかタイム	通子会	学級の時間	春 の 一 日 遠 足
1	たのしいがっこう（生活） ○学校探検をする。 ○学校生活について気付いたことをみんなで話し合う。	ハローイングリッシュ（外国語） ○ALTの先生と楽しく遊ぶ。 ○英語であいさつをする。	わくわくタイム（生活） ○学年の友達と挨拶したり、仲間作りゲームをしたりする。 ○読み聞かせを聞く。	うたってあそぼう（音楽） ○伴奏に合わせて楽しく歌ったり、遊んだりする。	
2	みつけたよ（国語・図工） ○学校探検で見付けたことを言葉や絵でカードにかく。	みつけたよ（国語） ○学校探検で見付けたことをかいたカードを見せながら伝える。	親子通学子ども会（特別活動） ○同じ通学子ども会の友達や保護者の前で自己紹介をする。	10までのかず（算数） ○5までの数を、おはじきを使って数える。	
3	うたってあそぼう（音楽） ○伴奏に合わせて楽しく歌ったり、遊んだりする。	かけっこ・リレーあそび（学年体育） ○みんなで、かけっこやリレーあそびをする。	すきなもののな（図工） ○自分の好きなものをパスを使って絵に表す。	かけっこ・リレーあそび（学年体育） ○学年のみんなでリレーあそびをする。	
4	10までのかず（算数） ○5までの数を、おはじきを使って数える。	うたにあわせてあいいうえお（国語） ○あいいうえおで始まるお話を読んだり、作ったりする。	たのしいえんそく（学級活動） ○遠足の行き先や活動について知る。 ○遠足の時の約束を話し合う。	うたにあわせてあいいうえお（国語） ○あいいうえおで始まるお話を読んだり、作ったりする。	
5	がっこうだいすき（道徳） ○学校にはどんな楽しいことがあるか話し合う。	10までのかず（算数） ○5までの数を、おはじきを使って数える。	うたにあわせてあいいうえお（国語） ○あいいうえおで始まるお話を読んだり、作ったりする。	内科検診（学校行事） ○内科検診を受ける。 ○検診の受け方を知る。	
下校	15:05頃 学校発	15:05頃 学校発	14:25頃 学校発	15:05頃 学校発	15:00頃 学校発
時数	国語：4.5時間，算数：3時間，生活：2時間，音楽：2時間，図工：1.5時間， 体育：2時間，外国語：1時間，道徳：1時間，特活：2時間，学校行事：6時間				

活動が学校にはたくさんあるということに気付かせ、学校生活への満足感を高めていくようにした。

4.3.2 第2週からの子どもの変容

学校生活に慣れ、朝や帰りの準備を自分でできるようになった。1単位45分の時間設定にも慣れ、授業が始まる頃には、自分たちで教室に入る子どもの姿が増えてきた。係活動や給食当番にも意欲的に取り組む姿が見られた。また、かけっこ・リレー大会に向けての練習や一日遠足を通して、同

じ学級の友達と一生懸命応援する姿や同じ学級の友達と仲良く遊ぶ姿など学級集団としての意識を高めることができた。

通学子ども会の友達や給食の手伝いに来てくれる6年生とのかかわりが増えたことで、学校のことや違う学年の友達をもっと知りたいという思いを高め、始業前には、進んで学校探検に出かけ、校内の様子を見たり、高学年の教室に遊びに行ったりする子どもが増えてきた。

「今日は、〇〇をするんだよね。」と、週案を親

子で確認している子どもが多く、見通しをもつことができ、より一層安心感を高めながら学校生活を送ることができるようになってきた。

4.4 第4週の週案と実際

◎第4週のねらい：これまでの1ヶ月間を振り返る活動を通して、自分の変容や成長に気づき、これからの学校生活への意欲を高める。

4.4.1 第4週の週案作成ポイント

第4週は、これまでの活動を振り返りながら、自分の変容や成長を気づき、そして、そのことを

学校生活の中でどのように生かせるのか考える活動を取り入れていく。

学級活動では、学級における生活をよりよくしていくための係活動に気付かせ、できるようになったことを生かした係を学級みんなで考え、決めていくことにした。

第4週には、「1年生を迎える会」が計画されていた。そこで、迎える会を運営する2年生の姿から、「2年生みたいになるにはこれからどんなことをがんばればいいのか」と、これからの自分たちを考えるきっかけとするようにした。また、2年生にも1年生の時期があったことに気付

表6 第4週の週案

【第4週テーマ】もっとできるよ ぼく・わたし！（有能感）					
日	27	28	29	30	5/1
曜	月	火	水	木	金
行事	かけっこ・リレー大会				写真会
朝	学級の時間	学級の時間		係の時間	
1	かけっこ・リレー大会（体育） ○かけっこのコースをまっすぐ走る。 ○ゴールまで力いっぱい走る。	わくわくタイム（生活） ○学校のいろいろな先生方の話を聞く。	昭和の日	どうぞよろしく（国語・図工） ○学校探検のための名刺を作る。	写真会
2	○学級の友達と力を合わせてリレーをする。	えんぴつとなかよくなるう（書写） ○姿勢や鉛筆の持ち方に気を付けて、ひらがなを書く。		がっこうたんけんをしよう（生活） ○名刺をもって、学校探検をする。	
3	うたってあそぼう（音楽） ○校歌を知る。 ○歌に合わせて楽しく遊ぶ。	ことばをつくろう（国語） ○あいいうえおで始まる言葉を集める。		たのしいがっこう（生活・図工） ○探検で見付けたものや人を絵でカードに描く	
4	かかりをきめよう（学活） ○係活動について知る。 ○係を決める。	たのしいがっこう（生活） ○2年生と遊ぶ。 ○学校のことを教えてもらう。		たのしいがっこう（生活・国語） ○学校探検で見付けたものや人の名前をカードに書く。	
5	うたにあわせてあいいうえお（国語） ○あいいうえおで始まるお話を読んだり、作ったりする。	10までのかず（算数） ○10までの数を数えたり、数字を書いたりする。		10までのかず（算数） ○10までの数を数えたり、数字を書いたりする。	
下校	15：05頃 学校発	14：25頃 学校発	15：05頃 学校発	15：05頃 学校発	15：05頃 学校発
時数	国語：4時間、算数：2時間、生活：4時間、音楽：1時間、図工：7時間、体育：2時間、特活：1時間				

かせ、「自分たちも、2年生みたいになれるんだな。」と今後の学校生活に意欲をもって生活することができるようにした。

子どもたちは、第3週までの学校探検や行事の中で、担任だけではなく、様々な先生方によって自分たちの生活は支えられていることに少しずつ気付いてきている。そこで、第4週のわくわくタイムでは、副校長先生や附属幼稚園の先生、警備員さんに、ゲストティーチャーとして参加してもらい、自分たちを見守ってくれている人々への関心をさらに高め、「先生たちも応援してくれるから、自分たちにできることをもっと頑張っていこう。」と意欲を高められるようにした。

4.4.2 第3週からの子どもの変容

これまでを振り返ったり、これまでの取組を生かしたりする活動を意図的に設定したことで、できるようになった自分に気付き、自主的にあいさつ運動に参加する子どもやみんなのためにトイレのスリッパをきれいに並べる子どもなど、意欲をもって、自分なりに考え、行動する姿が見られるようになった。

また、わくわくタイムを通して、いろいろな人に支えられていることに気付き、下校の際に、警備員さんに向かって「今日もありがとうございます。」と声を掛ける姿や、給食時に「おいしい

給食を作ってくれる給食の先生にお礼を言いに行きたいな。」と話す姿が見られた。

5. 実践の成果と課題

本実践を通して得られた成果は表7のとおりである。

課題については、表8のとおりである。

表8 実践の課題

- 多くの幼稚園・保育所から入学してくるため、実態把握を十分にはかれないままのカリキュラム作成になってしまった。実態把握の取り方について、今後は検討していく必要がある。
- 今年度は予想以上に小学校生活に無理なく適応することができたが、スタートカリキュラムの実施時期を入学からの1ヶ月間で終わりとするのではなく、短期的なもの（入学から1ヶ月）から中期的なもの（夏休みまで）や長期的なもの（1年間）といったスパンの中で身に付けさせたい力を基にしたカリキュラムの編成を考慮する必要を感じた。
- スタートカリキュラムについての認知を職員研修等を通して校内で高め、全校体制で指導を進められるような体制作りが必要である。

表7 実践の成果

子ども	<ul style="list-style-type: none"> ○ 入学直後から、学校探検を集中的に行ったことで、校舎のつくりや危険箇所等を理解することができたとともに、高学年や先生方など学校内には自分たちを見守ってくれている人があることに気付き、学校生活への安心感をもたせることができた。 ○ 「今度は図書室で本を読んでみたい。」「探検で見付けた遊具で遊んでみたい。」と学校探検で高まった子どもの思いを基に他教科等の学習を進めたことで、学校や学習に対する関心が高まり、主体的に学習活動に取り組む姿が見られた。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ○ 週案があることで、学校の様子を知ったり、準備物を把握したりすることができ、安心して学校へ送り出すことができた。 ○ 同じ幼稚園の友達がおらず、心配していたが、「わくわくタイム」を通して、学級や学年の友達と仲良くなったことや様々な先生とのかわりをもっていることを知り、安心することができた。 <p>※ 保護者アンケートより</p>
教師	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年合同の活動（「わくわくタイム」）を取り入れたことで、整列や挨拶、話の聞き方等、共通の生活習慣や学習習慣の形成につなげることができたとともに、口組の担任という意識だけではなく、学年全体を学年部の教師で見守るという意識をもつことができた。 ○ 週案を事前に作成することで、学年部での役割分担が明確になり、子どもの実態や反応を基にポイントを絞って指導方針を話し合うことができた。また、担任が見通しをもって指導に当たることができ、初めて1年担任をするという職員も安心して指導に当たることができた。

付記

本報告は、鹿児島大学教育学部附属小学校平成25～27年度研究紀要で発表した研究内容等に基づき、生活科教育において研究をさらに発展させ、その研究成果をまとめたものである。

参考文献

文部科学省（2008）小学校学習指導要領解説 生活編